

【富山県高岡市】 関係機関と連携した防災士育成や防災士による地域防災力の向上

【ポイント】

- ✓ 高岡市では、地震、水害等の災害リスクのある地域でありながら、近年は大きな災害が発生していないことから、行政・住民ともに災害対応の経験が乏しく、災害に備えるための地域防災力向上、人材育成が喫緊の課題
- ✓ 近隣自治体も同様の課題を抱えていたことから、地域防災力向上のため、「とやま呉西圏域」の6市が連携して自主防災活動の支援を行う防災士の育成事業を進めるとともに、防災士による地区防災計画策定補助の取組を推進
- ✓ 6市での連携強化を図るため、地域計画に取組を明記しつつ、KPIによる毎年度の進捗確認を行うことで着実な取組の推進を担保

1. 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- 本市が位置する富山県西部地域は、邑知瀧断層や呉羽山断層を始めとする複数の活断層が確認されており、強い揺れによる甚大な物的・人的被害が想定されている。また、急流河川である庄川・小矢部川の扇状地に市街地が形成されているため、豪雨が発生すると河川氾濫により流域全体において浸水被害や土砂災害が生じるおそれがある。
- 一方で近年、富山県内は大きな災害に被災していないため、災害に対する危機意識が乏しいことに加え、被災後の避難所運営や応急復旧などの経験者が行政・住民ともに少ない。このことから、防災意識を高め、災害時において迅速かつ的確な防災活動を実施できるようにすることは、行政・住民に共通する喫緊の課題である。

2. 取組の内容

【県西部「とやま呉西圏域」6市の連携による防災士育成事業】

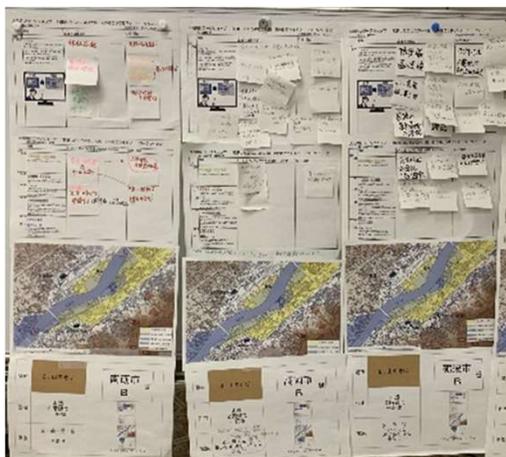
- 大規模災害に対応するためには、自主防災組織による共助の取組が欠かせないことから、その活動を支援する“防災士の育成・強化”を6市が合同で取り組んでいる。具体的には、「NPO法人富山県防災士会」や行政機関、有識者などの講師を招き、防災士を対象としたDIG(災害図上訓練)やHUG(避難所運営ゲーム)などの各種訓練を実施しているほか、防災士が住民に対する周知・啓発などについての講習会や講演会の講師を担うことで、必要な技能の研鑽を促進している。
- 防災士の一番の役割は住民に対する防災啓発であるが、住民を相手に活動するためには自信と経験が必要である。そのため、防災士の経験値を考慮し、初任クラスの防災士にはまず市職員や学生を対象とした講演会等の講師を依頼し、ベテラン防災士には地元的一般住民や6市全域の住民を対象にした規模の大きな講演会等の講師を依頼するなど、防災士の啓発スキルの段階的な向上を図っている。

【富山県防災士会との連携による地区防災計画の策定】

- 高岡市では、自主防災組織の強化を図るため、地区防災計画策定の補助制度を創設し、住民と地域の防災士による計画策定を促進している。富山県防災士会から派遣された防災士と地区の防災士の指導のもと、住民や関係団体等が地区の災害リスク等を話し合いながら計画策定に取り組んでいる。

(講習会時ワークシート)

(講習会の様子)



3. 本取組と地域計画の関係及び取組の効果等

【地域計画における記載】

- 第6章 推進方針(P22)において「地域の防災リーダーである防災士の増加を図るとともに、とやま呉西圏域の6市（高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）の協力・連携による防災士育成事業により、呉西圏域内における地域防災力の強化を促進する。」と記載し、6市が協力して地域防災力の強化を進めていくことを庁内外に打ち出している。
- また、継続的な訓練参加による防災士の技能維持を図るため、「毎年40人以上の訓練等の参加」をKPIとし、毎年度の進捗管理を行っている。

【取組の効果等】

- 令和3年度は、本市の目標40人以上に対し、実績54人、6市での目標200人に対し、実績308人であり、目標を大きく上回ることができており、地域の防災士の技能維持が図られている。

- 地区防災計画の策定が進んでいるだけでなく、市域を跨いだ防災士同士のノウハウの共有による地区防災計画策定に留まらない地域との連携活動が始まりつつある。
例) 地域の防災士が主体となり、まるごとまちごとハザードマップの検討、地域防災マップの作成、避難所運営訓練の実施、要配慮者を対象とした防災訓練等を実施
- 副次的な効果として、6市の防災担当者と顔の見える関係が構築され、避難情報の発令などのタイミング等について行政間の緊密な連携を図ることができている。

4. 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- 地域防災力を強化するためには、自主防災組織の活性化を図る必要があります。富山県西部6市（「とやま呉西圏域」）の取組は重要と思われます。また、防災士の資格を取得するだけでなく、資格取得後、自己研鑽に努めて地元でどのような活動をするのかが問われています。そのためには、地区防災計画の策定に携わることが有効であると考えます。それにより、現代社会が抱える防災・減災のニーズに応えることにつながります。（富山県防災士会理事長）

5. 今後の展開予定

- これまで市職員が務めていた地域での自主防災訓練の講師を徐々に防災士にお願いしていくなど、防災士と地域との連携・協働の場面を増やしながら、地域住民が主体となった地域防災力の向上を進めていく。